

正副地域委員長会議(平成21年12月18日) ワークショップのまとめ

項 目	ご 意 見
<p>地域委員会で取り組んでいるテーマをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティづくり ・地域課題の拾い出し(湛水対策・中山間地域の資源の掘り起こし) ・地域資源の掘り起こし(観光資源、遺跡、史跡の再認識) ・ケーブルテレビエリアの拡大 ・ブロードバンド化の検討 ・通学の安全、スクールバスの運行 ・ICを核とした地域づくり ・地域住民の意識高揚対策 ・地域住民の要望の聞き取り、とりまとめ ・これからの福祉と医療 ・道の駅や特産品生産体制整備 ・地産池消・体験交流・販売拠点の整備推進 ・農業、漁業、観光の連携、地域特産物のPR ・住みたいまち、誇れるまちの視点からの議論
<p>地域委員会を運営していくうえで、工夫されていること、工夫していきたいと考えているものをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の方が発言する環境づくり ・自由な討議、発言しやすい和の環境づくり ・地域のイベントに参加し、住民との交流の成果を委員会に伝えること。 ・ブレーストーミングの活用 (ある議題についてアイデアを出したい場合や、問題点を列挙したい場合などに、複数人が集まって自由に意見を述べて、まとめあげる手法) ・用意された議題・報告にないその他の部分で意見を引き出すよう努力をしている。 ・議事録なしのフリートークの時間の確保 ・十分な議論ができるようにすること ・各種団体の事業等への協力体制を話し合うこと ・若者との交流で意見を聞き、事業に反映させること ・実践的な検討・企画提案のできる場づくり ・本庁担当課長を交えた勉強会の開催、地域内の懸案事項箇所への視察 ・委員への事前資料配布の徹底 ・委員が全会議に出席できる日程調整 ・委員会の前に、正副委員長と事務局で打合せを実施

項 目	ご 意 見
<p>地域の住民活動を活発化させていくために地域委員会で取り組むべきものをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事には委員自ら率先して参加し、地域内の実情を把握すること ・地域の行事の実行委員会に地域委員会の代表として参加、協力すること ・地域住民や区長会、地域の活動団体との意見交換を行う場づくり ・地域委員会の存在をPR、認識してもらうこと ・地域委員会自ら地域現況を知り、市政に情報提供できる仕組み ・他地域との交流 ・継続事業だけでなく、新しい事業に取り組んでもらう環境づくり ・地域の事業への補助金支援、地域づくりへの専門家アドバイザー支援 ・地域づくりのリーダー発掘 ・地域活性化のために活動している集落や団体を地域委員会として認知し、活性化策を講じる仕組み ・一般住民の意識、関心の掘り起こし、地域委員が、自らの集落の活性化させることが大切 ・分科会テーマを委員から提出してもらうこと、身の回りで手をかければ良くなるものを議論していくこと ・将来ビジョンを示し、住民全員参加の地域コミュニティの推進 ・特産品の開発、生産、販売の促進、道の駅などのNPO支援 ・地域の優れた工芸・銘産品への地域認証制度の創設 ・ボランティア団体が抱えている問題点への支援(人員確保、後継者など) ・担い手育成による耕作放棄地の有効利用 ・ウォーキングコースの整備、利用者へのPR ・雪を利用した冬季間のイベント ・工場跡地への企業誘致
<p>合併後のまちづくりで、取り組みが進んできたと思われることをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の整備(圃場整備、道路整備、下水道整備、体育施設の全利用など) ・高速インターネット環境の整備、ケーブルテレビのエリア拡大(一層の拡大を期待) ・市全体の動きが見え始めてきた。(遊休施設の利活用など) ・都市計画マスタープランの地域展望づくり ・住民の不安感が安心感に変わって、何か行動的に動くことができる意識が芽生えてきている。 ・交流人口が増え、住民におもてなしの心が芽生えてきたこと。 ・事業イベントの充実、住民参画の地域コミュニティ ・地域コミュニティ事業、越後長岡ツーデーマーチ ・地域の活性化につなげる環境づくりの整備(観光拠点の整備、情報発信など) ・まちづくり協議会が立ち上がり、住民参加による地域の盛り上がりが出てきた。 ・市民の考え方が少しずつ変わってきたこと(例:まずは自分たちが汗をかく) ・広域的に地域づくりの交流が図られ、地域主導の活動意識の改革が進んできた。 ・同じような活動をしている団体や地域の情報が得やすくなり、これらの団体が集まり、情報交換の場づくりが進んできた。 ・小学校統合により、大人、子どもが仲良く情報交換できる雰囲気醸成されてきた。 ・地域の資源(旧跡、史跡など)の再確認が進んできた。 ・農村振興等の専門的な行政対応方針等に関する情報サービスが充実してきた。